

コード	101020102
記入日	H21.5.20

事務事業途中評価表

課コード	117
課名	観光物産課
課長名	中島紀昌
担当者	畑下幸治

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	五島広域観光推進事業補助金	事業種類	単年度繰返事業
		事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 - 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	1	政策名称	にぎわいを創る地域交流の促進	款コード	7
施策コード	101	施策名称	魅せる観光のしまづくり	項コード	1
基本事業コード	10102	基本事業名称	新たな観光資源の開発とネットワーク化の推進	目コード	3
事務事業コード	1010201	事務事業名称	観光振興事業費	細目コード	140
関連計画	法令・条例規則等				

計画 (PLAN)		※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。							
対象: 誰、何を対象にしているのか			対象指標: 対象の大きさを表す指標						
(対象1) 五島広域観光連盟			(対象指標1) 1市1町18事業所						
(対象2)			(対象指標2)						
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入			活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)						
(全体)		(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)		
*****		・五島地域観光資源創出・活用事業 五島列島観光ルートガイドブックの製作 福岡地区における情報発信PR事業	*****	*****	*****	会議開催回数÷計画	*****		
			会議開催回数	5回	100%	開催回数	平成20年度		
			①	(達成率分析)	当初計画どおり、五島観光招致のための会議を開催することができた。				
			②	(達成率分析)					
目的: 何をしたいのか			成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)						
観光における合同イベントの開催などを通じて、五島列島としての一体化を図り、五島経済の活性化に資する。			(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)		
			*****	*****	*****	本年度集客数(1,214) ÷前年度集客数(1,226)	*****		
			集客数	1,214	99%		平成20年度		
			①	(達成率分析)	「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が世界遺産の暫定リストに掲載されたことや、カトリックの世界的な儀式である列福式が長崎市で行われたことなどから増加要因も見受けられるが、原油価格の高騰による交通運賃の値上げなどから減少傾向は否めなかった。				
			②	(達成率分析)					

実施 (DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。											
	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 回	24	24	19	5	5					
	②										
成果指標	① 千人	4,959	4,947	3,733	1,226	1,214					
	②										
総事業費 C (A+B)		千円	13,345	13,345	10,245	3,100	3,100				
直接事業費 A		千円	4,945	4,945	3,945	1,000	1,000				
人件費 B		千円	8,400	8,400	6,300	2,100	2,100				
内訳	従事職員数	人	1.2	1.2	0.9	0.3	0.3				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源		千円	13,345	13,345	10,245	3,100	3,100				

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	五島列島は観光抜きには語れないほどの資源があり大きなウェイトを占めている。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	観光は今や観光産業と言われるほど裾野の広い産業となっており、雇用の場の創出といった観点からも必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	本土地域から見る五島観光はひとつの地域として存在しており、観光面における上五島と下五島の広域連携は、なくてはならないものである。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	今後は、さらに充実した連携を図る必要がある。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	今後、構成団体をさらに増やし、充実を図る必要がある。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	上五島・下五島がそれぞれ独立して取り組んでも、観光客のニーズに応えることができない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	地理的、歴史的にも上五島・下五島を切り離すことはできない。よって、類似事業などは存在しない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	上五島・下五島の民間団体も広く含めた構成団体に組織されており、事業費を行政のみ削減することは好ましくない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	今後、さらなる発展と充実を図らなければならず、いかなる削減も好ましくない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	直接的な受益者負担は発生しない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	本土地域から一つとして見られている五島観光事業を、上五島と下五島が広域的な連携を組み推進する。
		有効性	上五島・下五島が連携し、観光事業をあらたな産業として発展させ、そのことにより島内雇用の確保を図るため、この補助活動の更なる充実に努める。
		効率性	今後ますます連携を深め、質の高い情報発信を行う必要がある。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	今後も五島圏域一体となった観光事業を展開し、上五島の情報発信を積極的に行っていくこと。
		効率性	事業効果を検証し、協議することで更なる効率化を図ること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。